

## 石川県原子力安全専門委員会 議事概要

1. 日 時：平成 26 年 3 月 3 日（月）9 時 00 分～10 時 20 分
2. 場 所：能登原子力センター2 階会議室
3. 出席者：委員 6 名、説明者、事務局他
4. 議事概要：

- (1) 「委員長の指名」について、安管協会長である竹中会長から片岡委員が指名された。
- (2) 「石川県原子力安全専門委員会設置要綱」について、事務局から説明があり、委員会として承認された。
- (3) 「志賀原子力発電所敷地内破碎帯に関する追加調査報告書（最終）」について、北陸電力から説明があった。

(委員) S-1 について、S-6 との同時性等を考える場合、S-1 の北西方向への伸びや、S-1 と S-6 が交差しているかどうかに関連すると考えるかどうか。

(電力) シームについては、まず帯状を呈する火山碎屑岩というものがあり、その中にシームが形成されている。基本的に帯状を呈する火山碎屑岩が形成された当時においては、S-1 や S-6 が分布している帯状を呈する火山碎屑岩には共役的な関係があったと考えている。ただ、シームの形成はそれら帯状を呈する火山碎屑岩が岩石化した後であり、見かけ上は S-1 と S-6 は共役的に見えるが、実態としては共役関係にはないという見方をしている。

(委員) 福浦断層のトレンチについて、変動地形である可能性が低いとするリニアメントの延長線上ではなく、破線で示したリニアメントの延長上の部分を掘ったということによいか。

(電力) リニアメントの北側についてはシャープに直線上の谷があり、断層位置は、かなりの確度で把握できる。しかし、南側については、地形的にリニアメントの明瞭度が劣り、その位置については文献でもバラツキがある。兵庫県南部地震以降、変動地形の見方について細かく知見が得られており、今回はそれを反映し、波線で示した延長の範囲を含めて調査した。

(委員) 変位センスとは何か。せん断応力とせん断応力の向きは同じであるが、これがなぜ、逆断層センスと正断層センスになるのか。

(電力) 亀裂の向き等からずれの方向、つまり変位センスを判断しており、上盤側が上にずれる場合を逆断層センス、下にずれる場合を正断層センスとしている。

(委員) 現在の岩盤の応力場について、3 軸応力状態がわかっているのか。

(電力) 厳密に言うとわかっているのは、平面上の水平方向にある最大主応力であり、この分布方向が重要であるという見方をしている。